

## <作品概要>

作品名 — 大都市名古屋における「まちなか生物多様性緑化ガイドライン」  
対象地 — 名古屋市  
発注 — 名古屋市(環境局環境企画部環境企画課)  
事業体制 — 株式会社プレック研究所  
事業期間 — 2021年5月 ~ 2023年3月  
事業目的 — 名古屋市のまちなかにおいて、多様な主体が生物多様性緑化を進めるための指針となるガイドラインを策定すること  
事業背景 — ネイチャーポジティブに向けた取組を進める機運の高まり及び名古屋都心部の再開発が活発化しており、名古屋市のまちなかにおいて生物多様性への配慮を組み込む好機となっている

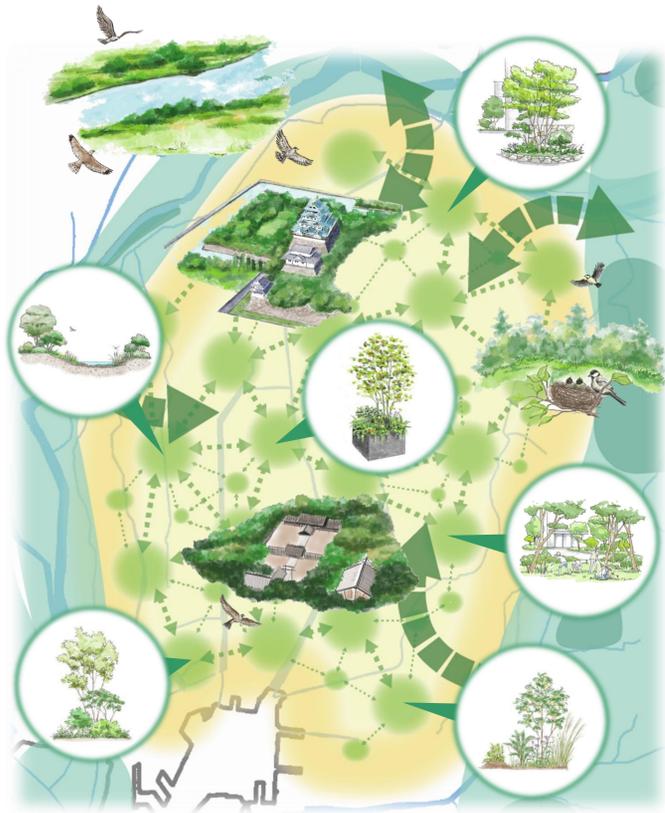


ガイドラインの主な対象者・対象区域

主な対象者	日ごろ緑化に関わる以下の方々 ・土地・建物の所有者または管理者 ・開発に関わる事業者(デベロッパー、ゼネコン、造園業者等) ・市民・市民団体・事業者
対象区域	名古屋市内の都心部と周辺市街地(=「まちなか」という)

## <名古屋の生態系ネットワーク>

名古屋で生態系を回復させていくための考え方を提示するため、現況把握・生態系調査・まちづくり動向調査等を踏まえ、生物多様性緑化の取組を活かす名古屋の生態系ネットワークの考え方を提示した。



まちなかの緑地が少ない	生態系調査から得られた示唆	まちづくり動向調査からの示唆
名古屋のまちなかには緑地が少ない状態。この大都市の生態系ネットワークを構築していく上で、現在の「白色地域」(緑地の乏しい地域)を生態系ネットワークにおいてどのように位置づけるかが重要である。	東部丘陵や庄内川などには自然が残されている。そのような周辺部からまちなかに生きものを呼び込むことが効果的。また、名古屋城・名城公園や熱田神宮などは、生きものにとって「大都会のオアシス」として機能。	都心部で再開発が進むにつれて、空閑地・駐車場など未利用地等が点在していた。これらの中で生物多様性緑化を行っていくことで、大小さまざまな生物多様性緑地を創出できる可能性がある。

### 名古屋の生態系ネットワーク

**基本的考え方**

- ◇東部丘陵や庄内川周辺など、生態系豊かな周辺部が生きものの供給元となるため、周辺部からまちなかに生きものを呼び込む。また、まちなかの中でも、名古屋城・名城公園や熱田神宮などは生きものの生息・生育の拠点となり、生きものの供給元となる。
- ◇まちなかで、商業施設やマンション、戸建て住宅などにおいて、生きものエサ場や休息場所となる場をつくるなど「生物多様性緑化が進んだエリア」(左図中の黄緑色の丸)を多数創出し、生きものを呼び込む。
- ◇生きもの主要な生息・生育地及び生物多様性緑化が進んだエリアを生きものが縦横無尽に移動することで、名古屋市全域の生態系ネットワークがより繋がっていき、生物多様性が豊かになる。
- ◇このように、個々が取り組んだ「生物多様性緑化が進んだエリア」が市域全体の生態系ネットワーク形成に貢献する

まちなかに生きものを呼ぶイメージ

**特徴・ポイント**

- ◇緑地の乏しい「白色地域」に生物多様性緑地を創出し、「白色地域」の「質」の底上げを図る考え方を示した。
- ◇都市部の民間緑地は、建物の建て替えや人為的影響で生息環境が悪化するなど、個体群の消長や変動が大きいためと考えられることから、生態系ネットワーク全体としてメタ個体群のように考えた。
- ◇生物多様性緑化が進んだエリアを大きなエリアと小さいエリアで幾何学的に配置し、近隣のエリア間で生きものの移動がみられる。

## <モデル事業>

モデル事業(7箇所)において、生物多様性へ配慮した緑化を試行し、生のデータ(特に、事業者・実施者の「生の声」として良かった点や悩ましかった点等)を集め教訓とすることで、より実効性のあるガイドライン作成を目指した。

- モデル事業に関する支援内容
1. モデル事業の公募に向けた参考資料の作成
  2. モデル事業対象地の現地確認・緑化に関する意向確認
  3. 各対象地の生物多様性に配慮した緑化プランの企画(例:植栽プランの検討、事業者・実施団体との調整 他)
  4. 情報提供のための看板の作成
  5. 生物多様性に配慮した植栽
  6. 植栽後のモニタリング実施支援
- ※対象地ごとに支援内容は若干異なる



モデル事業で得られた教訓の一部

緑地に期待する役割や制約条件が事業地ごとに異なる。取組の裾野を広くするには、一律に同じような考え方を当てはめたり、生物多様性緑化の順序や基準を決めることは現実的に難しい。

「施設の顔となる華やかな植栽」(来訪者をもてなす役割)など、都市の緑地の機能として華やかさは重要。

都市の緑地は人工的基盤や制約条件(例:移動可能な植栽)が前提で、与条件に適宜対応する必要がある。

在来植物リストの提示ではまだ取り組むハードルが高い。在来種を用いた植栽セットも例示できるとよい。

## <みんなで進める生物多様性緑化(理想の姿)>

ガイドラインの冒頭に、「みんなで進める生物多様性緑化(理想の姿)」と題したイラストを掲載した。本ガイドラインに記載の生物多様性配慮が実現した姿をイラストで紹介することで、生物多様性緑化のイメージ共有を行い、取組意欲の向上を図った。



## <名古屋市における「生物多様性緑化とするためのポイント」>

名古屋市において生物多様性緑化を実際に進めるための基本的な考え方や具体的な手法を「生物多様性緑化とするためのポイント」として示した(右下図)。より多くの事業者・市民に取り組んでもらえるよう、「必ずしも全て行う必要はない」ことを明記した上で、数多くの生物多様性緑化のヒントを満載し、自ら取組を選べるようにした。特に注力したポイントは次の通りである。

### ①「名古屋らしい」生物多様性緑化を目指して

名古屋市内で生物多様性緑化が進み、名古屋らしい生態系が回復していくよう、「目標種の例」及び「特におすすめの在来種リスト」を提示した。

### 名古屋らしい目標種例の選定

**目的** ポイント①「呼びたい生きものをイメージする(目標種の設定)」を具体的に進められるよう、名古屋らしい目標種例を提示する

**工夫** 「名古屋に生息している」「モニタリングのしやすさ」などの観点(右記)で、名古屋らしい目標種例を20種選定した(例:コゲラ)

- ・都心に緑地が少ないため、飛翔力の高い鳥類やチョウ類を基本としつつ、2段階目の難易度(チャレンジ)では甲虫も目標種例に加えた。
- ・緑化植物の選択の参考とするため、目標種例の食餌木や食草・吸蜜植物を示した。

**<観点>**

- 名古屋に生息している(生態系調査より)
- 都心への誘致可能性
- モニタリングのしやすさ
- 市民の親しみやすさ
- 害虫にならない

**コゲラ**

特 徴	山地の林から市街地の公園まで、木のあるところに広く生息する。キツツキの仲間。留鳥。
食 餌 木	マユミ、クサギ、ニシキギ、ツルクモドキ など
確 認 場 所	名古屋城・名城公園、熱田神宮、白川公園、鶴舞公園、東山公園・平和公園、小幡緑地、大高緑地、庄内川、堀川、白鳥庭園

### 名古屋らしい植栽リストの作成

**目的** ポイント③「在来種を植える」を円滑に進める助けとなるように、名古屋に適した在来種のリストを提示する

**工夫** ・名古屋に生育する植物から、下記の選定基準で、特に名古屋の植栽としておすすめの在来植物を32種選定した(例:エゴノキ)。  
・資料2「生物多様性を向上させる植物リスト」に100種以上掲載し、生きもの利用、開花・結実時期、日照条件を示した。

**<選定基準>**

- ・名古屋在来の普通種
- ・一般に入手しやすいもの
- ・花や実で生きものを誘引し、生きものを呼び込む効果が高い
- ・都市環境に適応し、維持管理が比較的難しいもの
- ・生きものが継続して利用できるように、多年草や樹木
- ・見た目が美しく、華やかな印象をもつもの

植栽	高木・小高木	落葉 高木	常緑 高木
エゴノキ	ヤマザクラ	ソヨゴ	コムラサキ
マユミ	クサギ	ニシキギ	ツルクモドキ
オオトコソライ	ヤブラン	ウツロギ	バードバス

### ②誰もが取り組める生物多様性緑化を意識

一見すると難しそうに見える生物多様性緑化に多くの人に取り組もうと思えるよう、生物多様性配慮を厳しく適用しすぎず、比較的容易に取り組めることを各所に満載し、取り組むハードルが低いようにした。



**事前構想** ポイント① 緑地のコンセプトを考えよう

- ◆ 呼びたい生きものをイメージする(目標種の設定) P36
- ◆ 緑地のストーリーを考える P40
- ◆ グリーンインフラの機能を高める P45

**施工**

ポイント② 生きものエサ場・すみかとなる工夫をしよう	ポイント③ 在来種を植えよう
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 緑をできるだけ増やす P46</li> <li>◆ 土に気を配る P49</li> <li>◆ 花や実をつける植物を植える P50</li> <li>◆ ワンパターンにしない P51</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 侵略性のある植物は植えない P56</li> <li>◆ 在来種を植える P57</li> </ul>

**維持管理** ポイント④ 維持管理の工夫をしよう

- ◆ 必要な作業と役割分担をイメージする P61
- ◆ 時間をかけて緑地を育てる P62
- ◆ 近隣住民などに配慮する P63
- ◆ 農業や肥料に気を配る P64
- ◆ 剪定や草刈り、清掃に気を配る P64
- ◆ モニタリングをする P66
- ◆ 緑地をPRする P67

### ③維持管理の具体的な手法を記載

『維持管理』を重視し、一つのポイントとして扱った。はじめて緑化に取り組む市民も想定した基本的な作業から、維持管理上の留意点(例:近隣住民への配慮、外来種の抜き取り、モニタリング、緑地のPR等)を示した。

